

ハノイ集合住宅・団地の現状 - GIANG VO の調査 -

KS
DP 関西大学
戦略的研究基盤
編
団地再
リーフレット
Re-DANCHI leaflet

MAY 2012
VOL.026

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』



ハノイの集合住宅・団地の歴史、背景

ハノイの団地には日本では考えられないような住戸の増築、オープンスペースの占拠が目立つ。そのためオープンスペースは狭まっているが、かえって生活があふれ出し活気づいているように見える。将来のアジアの団地再編を考える上で、このような人々の自力更新の実態、空間形成の経緯を知ることが重要である。

ハノイは1010年、李王朝により首都に選ばれ城ができた。その城郭跡は現在の地図を見ても明らかに残っている。その後フランスの植民地となり、フランス式の都市計画が行われた。フランスから独立後、ベトナムの首都となったハノイには、南部へ移住していた人たちが帰郷してきたことと、農村から都市への移住者の増加とが重なり住宅不足が深刻化した。

さらにベトナム戦争が始まり、ハノイには官僚、軍人などが集められ人口は急増、集合住宅団地の建設がすすめられた。戦争中のこの時期にはソ連の計画理論を用いた集合住宅団地が国家予算で建設された。これは、戦時下の北ベトナムがソ連や北朝鮮から多大な財政的、技術的支援をうけていたためである。

終戦後、ベトナムが再統合されると、再び地方か

らハノイへと人口が集中、住宅問題はより深刻なものとなった。市域を拡大しつつ、大規模な集合住宅の建設がさらにすすめられた。その計画は建設省と様々な研究所により研究されたが、相変わらずその規模は狭小で、暑い気候にはそぐわない通風の確保されないプランは改善されず、低質な設備の集合住宅が数多く建設された。

近年ドイモイ政策が導入され、ベトナムは目覚ましい発展を遂げている。社会主義は見直され、市場経済主義を導入、住宅政策に関しても転換が図られ、退職金代わりに住宅の安価での払い下げがすすめられた。この一方で、住宅面積や通風を確保するための自己修繕、増改築が居住者の手によって進められた。

住宅の量的充足が進まなかった時期、政府は一時期、既に専有している部分の土地について占有権が認められた。そのため、現在の増築や土地の占拠がすべて不法とは言えない。とはいえ、団地の中では一階住戸の店舗化店舗に連続した中庭の占拠や住宅の増築が至る所にみられ。それが空間的魅力となっているともいえる。

本稿では、以下でドイモイ政策以前に建てられた集合住宅団地の概要、その後の住民の自力更新による再編について紹介する。



- ① GIANG VO 団地
住棟数 27
ホテル 学校 幼稚園 大使館
 - ② NGUYEN CONG TU 団地
住棟数 16
マーケット 幼稚園
 - ③ KIM LIEN 団地
住棟数 44
学校 幼稚園 保育所 保育センター
技術者住宅 人民委員会 マーケット
郵便局
 - ④ KHUONG THUONG 団地
住棟数 12 幼稚園
- 増築範囲 ■ 高層集合住宅への建て替え
 建替え工事中 ■ 10階社宅への建て替え

図2 ハノイ広域 団地分布図

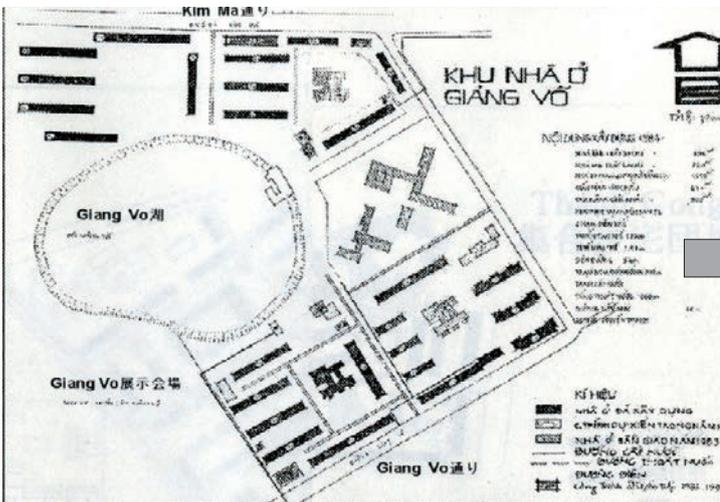


図3 GIANG VO 団地の計画配置図

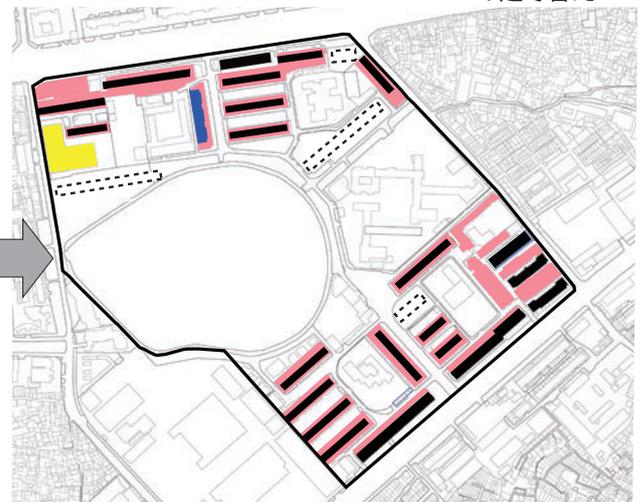


図4 GIANG VO 団地 現状図

ハノイ団地の立地、配置計画

ハノイには図2に示すように団地が随所に点在する。その多くはベトナム戦争時、ソ連の計画理論を応用して建設されたものである。当時のソ連は団地内に、生活に必要な施設、学校、公共文化施設、サービス、市場などがまとまって配置するソ連型のスーパーブロック近隣住区理論を用いており、初期の団地は高級官僚のための住宅であった。

GIANG VO 団地の配置計画

今回主に図2で示す4つの団地を観察調査した。本稿では、そのうち、1970年代に建設された典型的な団地としてGIANG VO 団地を取り上げる。

当初の配置計画図を図3にしめす。

GIANG VO 団地は中央に湖をもち、その周囲に位置する4つの住区からなっている。平行に配置されたプレハブ構造の5階建て住棟は27棟建設された。団地の中央部、湖の横には商店と高等学校があり、各住区の中央には幼稚園と保育園が1つずつ計画、配置されていた。

計画当初の

GIANG VO 団地周辺状況

当時の団地周辺の集落の様子を当時の地図から読み取る。

・周辺の街並み

もともと団地周辺には建物はなく、川筋が定まらない、豊かとは言えない農地であった。



図5 昔の寺周辺の絵

・寺の作り出す空間

GIANG VO という集落があり、そこにあった寺は、小さな池とともに現在もひっそりたたずんでいる(図16)。寺に飾られている昔の寺周辺の絵(図5)からも周辺には何もなくなかったことがわかる。

GIANG VO 団地の計画からの変化

図3にみられる団地内の住棟の配置計画や、周辺の環境が現在どれほ



図6 住棟のファサード 密度の濃い増築が外壁を覆う

ど変化しているのかを、現地調査をもとに説明する。

図6の建物からもわかるように、住棟の外壁には増築が飛び出すようにしており、その密度は周辺集落と類似するものがある。図7のような高層分譲集合住宅や業務ビル新設、建て替えを目的とした住棟の取り壊しが現在進行中で、この団地の周辺の変化と同じく、団地内も大きく変化している。

団地内空間利用

・住棟のファサード

住棟のファサードは、図6のようにオリジナルの黄色い団地の外壁に、鳥かごのような増築がひしめき、一階の店舗部分は、看板と増築で元の状態がわからない。団地の外壁には各住戸の人たちが作り出す構造が表出することになり、独創的なファサードとなっている。この住棟は、10年程前住棟を1棟を百貨店の社宅として建て替えたもので、10階建の高層建物となっている。10年間にこれほどの増築がついたということになる。

・湖に隣接する環境

ハノイの団地は湖を取り込んでいるものが多い。ハノイは水はけの悪い土地であったため、湖を掘り、出た土で造成をしたためである。

湖の周りは、日本のように柵を巡らせておらず、人と水との距離は近い。釣りなどをして楽しむ人たちの憩いの場となっている(図8)。この写真の右に映っている高層の建物はホテルである。計画住棟一棟と隣棟の一部を取り壊し建てられた。

・バイクの団地内への影響

ハノイの人たちの主な交通手段はバイクである。団地内には広い空き地があり、これが駐車場となっている(図9)。オープンスペースには必ずと言っていいほどバイクがおりてあり、道を狭めている。各住棟の階段には、バイクを上げるための細長いスロープが整備されている(図10)。

・オープンスペースの利用

図11、12、13はオープンスペースでの人の活動例である。図11は家の前でボードゲームをしているところにさらに子供たちが群がっている様子である。あちこちの団地内外でこの光景はみかけることができる。図12では、路上での散髪屋の光景である。工事中の塀を利用した、いかにも屋内といった雰囲気である。こういった例は他の団地でも見られた。図13は住棟と住棟の間の中庭空間である。増築により程よく狭まった中庭の木々にひもをかけ、



図7 高層建築物への建て替え

テントを張って飲食店を営業している。プラスチックのツールを何脚も積み重ねており、何人客が来ても店は無限に広げられる。

このように、団地内ではそれぞれの人々が自由に自分たちの活動をしている。

現在の GIANG VO 周辺状況

・周辺の街並み

GIANG VO 団地に隣接して、国際見本市会場があり、周辺は急速に高密度化、高層化が進んでいる。周辺は、4、5階建てから10階建ての搭状の住宅がびっしりと建てられている。1階は店舗、2、3階は事務所になっており、さらに上階に家族が暮らしている(図14)。市街地の中には、GIANG VO 団地と同時期に建てられたと思われる数棟の小規模団地も残っている(図15)。

・周辺集落内部

GIANG VO 集落も、細い路地に沿って高い建物がぎっしりつまっており、薄暗い。路地を歩くと、左右の家に暮らす人々の生活の姿が目に入る。この細い路地を、当然のようにクラクションを鳴らしながらバイクが入ってくる(図17)。集落にある寺の祭を媒介に、GIANG VO の団地と集落の人々が交流しつつあるという。



図8 池のほとりに集まる人々



図13 住棟間につくられるテント空間



図15 周辺の団地



図9 空き地に止められるバイク群



図14 細くて高い建物が並ぶ



図16 密集市街地内の寺



図10 段差に用意されたスロープ



図11 入り口前でのボードゲーム



図12 屋外散髪

図17 密集市街地内の寺

参考文献： 社会主義型集合住宅団地の計画特性に関する研究～ベトナム ハノイを事例に～ 大阪大学環境工学科 プイ・チーマン 平成14年度卒業論文

関連リーフレット：004、058、059

『ハノイ集合住宅・団地の現状 - GIANG VO の調査 -』

発行：2012年5月

レクチャー：鳴海 邦碩 (関西大学 客員教授)・岡 絵理子 (関西大学 准教授)
福本 優・坂口 文彦・中尾 礼太 (関西大学大学院 博士前期課程)

執筆：中尾 礼太 (関西大学大学院 博士前期課程)

(調査：2012年2月28日～3月4日)
(講演：2012年5月15日)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度～平成27年度)」によって作成された。

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>